

平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	市史編さん活動事業			会計	款	項	目	大事	小事
				01	10	05	08	02	02
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	図書・博物館				
施策	3-4	ながれやま市民文化の継承と醸成		主管課長	小栗 信一郎				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	流山の歴史を学習する者	意図	流山の歴史に関する資料及び研究成果を増加させる。流山に関する市民の理解や郷土意識の向上を図る。
事業内容	流山に関する資料の収集・保管、流山の歴史の調査・研究、古文書の解読、市史編さん審議会を開催、講座の開催、講師の派遣。			
事業開始から現在までの状況変化	昭和59年の機構改革に伴い、市史編さん室が廃止されて市史編さん係が設置され、各種の市史編さん活動を実施。市史編さん審議会の開催。講師派遣を実施し、多くの参加者を得てきた。平成14年度からは市史編さん係が学芸係に統合され、業務を担当している。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	講座開催回数・講師派遣数	4	4	4	
②	講座受講者数	128	77	129	人	↑↑↑	
③	解読された古文書数	199	350	968	点	→→	
④	刊行物の数	1	1	1	件	→→	
指標で表すことができない定性的な成果	研究者への資料提供や市民からの質疑回答など学習機会にも対応している。					目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）	
事務事業のコスト		平成25年度	平成26年度	平成27年度	・講座開催回数は前年度と同じであったが、内容を一部変更したため受講者数の増加がみられた。 ・古文書解読については、堅実に解読を進めており、現状を維持している。 ・廃版になった『流山のむかし』の内容を見直し、『チェック 流山のむかし』を刊行した。		
事務事業の総コスト(a=b+c)		10,792,944	15,712,212	8,641,471			
事業費(b)(円)		2,817,444	3,606,912	3,636,031			
うち一般財源		2,817,444	3,606,912	3,636,031			
職員給与費(c)(円)		7,975,500	12,105,300	5,005,440			
人役・職員(人)			0.60				
人役・再任用(人)		0.90	0.90	1.00			
人役・臨職(人)				2.39			
人役・嘱託(人)		2.20	2.20				
初期投資コスト(円) (建設又は取得年度のみ記入)							
想定耐用年数(年) (建設又は取得年度のみ記入)							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続 (事業を現状どおり継続すべき)					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H27)の改善計画	平成元年に刊行の「流山のむかし」が絶版になり、新たに『チェック！流山のむかし』として旧版の改定及び新事実など追加して、刊行する。	③取組の課題	市内に残る古文書の理解を深めるために、講座を多く実施する。
②今年度(H27)に実施した取組	内容の見直しを行い、『チェック流山のむかし』を刊行した。	④今後の改善計画	古文書目録の整備・作成。